

1 学校教育目標 夢や希望をもち、自ら学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成	2 本年度の重点目標 ①学力の向上を図る ②道徳教育・特別活動の充実と生徒指導の強化 ③健康・安全教育の充実 ④特別支援教育、人権・同和教育の推進 ⑤地域に開かれ、信頼される学校づくり ⑥健康で明るい教師が高きに和す学校づくり
--	--

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価				
①学力の向上を図る				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○教職員の資質向上	校内研究・校内研修の充実を図ることができたか	<ul style="list-style-type: none"> 各自年1回以上研究授業を実施し、授業力向上に努める。 教育センター講座及び研究発表会等へ1人1回以上参加し、自己研鑽に努める。 東部教育事務所等より3回以上研修を受け、校内研究・校内研修の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業力向上を目指した授業研究会を8回実施する。 研修後の報告の場をもち、新しい情報を共有する。 授業振り返りシートを活用し、日々の授業改善を行う。
	教育活動	●学力の向上	基礎学力の定着を図ることができたか	<ul style="list-style-type: none"> 4教科(国社算理)単元ごとのテスト到達度を85%以上にする。 全国・県学力状況調査・CRTの結果で全国・県平均を上回る。 「算数が分かる」という児童を85%以上にする。
		主体的学習習慣を育成することができたか	<ul style="list-style-type: none"> グループワークに進んで参加する児童を85%以上にする。 毎日の家庭学習の達成率を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で互いの学びを伝え合い生かす場を設ける。 話し合い活動の目的を明確にし、積極的に活動できるようにする。 デジタル教科書やタブレットPCの活用を行う。 朝の学習タイムでタブレットPCを積極的に活用する。 「家庭学習がんばろう週間」を年5回実施する。
		学校図書館を十分活用することができたか	<ul style="list-style-type: none"> 年間読書冊数一人1～4年100冊以上、5・6年70冊以上達成90%を目指す。 子どもたちが、読書に関心を持つような啓発・環境の工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 読んだ本の冊数が視覚的にわかるような表を作り、掲示する。 読書タイム、おすすめの本コーナー、図書館便りを活用し、読書に対する意欲をもたせる。 図書館祭りをを行い、本に対する興味・関心を高める。
	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の推進	ICT機器を授業等で効果的に活用できたか	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用した参観授業を年間2回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1日1回は、ICTを活用するように先生方に働きかける。 スパークティチャー(ICT)を招いた研修を行う。
②道徳教育・特別活動の充実と生徒指導の強化を図る				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○特別活動	児童の主体的・実践的な態度の育成に努めたか	<ul style="list-style-type: none"> 委員会での企画・立案による、年1回以上の自発的な活動の実施を目指す。 学級活動(話し合い活動)を年5回実施し、児童の主体的・実践的な態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員会において、自発的な創造工夫のある活動を推進し、活動を紹介する場を設定する。 学級において、自発的・自主的な実践活動に取り組む。 縦割り班活動(なかよしタイム)の充実を図る。
	●心の教育	道徳教育の充実に努めたか	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の参観授業を全学級1回以上行う。 2月13日の「命を考える日」の集会を、一人一人に命の大切さを考えさせる機会として活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあい道徳の実践を通して、保護者と連携する。 命を考える日の前までに、学級で命の大切さについて扱う授業を実施する。
③健康・安全教育の徹底強化を図る				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○危機管理	多様な事象への対応ができたか	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を年3回実施し、危機に対して円滑に動く体制を作る。 児童の登下校の様子を、学期に1回以上の登下校指導により把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を徹底することで、平時の危機管理意識を高める。 避難訓練のうち1回は、休み時間に行う。 不審者情報や緊急事案発生の際に、学校情報携帯メール配信を確実に実施する。
	教育活動	○安全教育の徹底	安全指導の徹底に努めたか	<ul style="list-style-type: none"> 登校の様子の振り返りを月1回実施し、安全に登校する意識を高める。 自転車乗車時のヘルメット着用率100%を目指す。 防犯ブザー携帯率100%を目指す。
●健康・体づくり		望ましい生活習慣の形成に努めたか	<ul style="list-style-type: none"> 「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発を年に2回以上行う。 給食後の歯磨き100%を目指す。 むし歯保有率を20%以下にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムアンケートを年2回実施し児童に意識づけを行う。 生活リズムアンケート結果を便りに載せ、保護者の関心を高める。 歯磨き指導を行う。歯みがき強化期間を設ける。(6/4～) 長期休業中は、歯磨きカレンダーを活用する。 歯の検診結果う歯保有の児童に、年に2回 病院受診を勧める。
		運動習慣の改善や定着に努めたか	<ul style="list-style-type: none"> 体育的行事では、できるだけ児童の主体的活動を入れるようにし、運動習慣への意欲・関心を高める。 なかよしタイム等において、児童の主体的な活動を10回以上行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の自主性を活かした運営で運動会・縄跳び大会を計画する。 佐賀県が推進している「スポーツチャレンジ」に1回以上参加し、運動能力を高める。
		望ましい食習慣と食の自己管理の育成に努めたか	<ul style="list-style-type: none"> 朝食の喫食率100%を目指す。 給食の残菜0を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートを行い、朝食の内容に関心を持たせる。 アンケート結果の考察を保護者に配布する。 給食の残菜調べを学期に1回行い、好き嫌いをなく食することへの意識化を図る。 栄養教諭によるTT授業を行い、意識を高める。

④ 特別支援教育、人権・同和教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営 教育活動	●いじめの問題への対応	いじめの未然防止・早期発見に努めたか	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導連絡協議会等で、気になる子どもについて、確実に情報共有等を行う。 学校が楽しいと答える児童を90%以上にする。 「なかよしアンケート」の月1回の実施を目指す。 校内就学支援委員会を年1回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 気になる子に配慮するとともに、全職員で育てる体制をつくる。 専門機関(SC、SSC等)との連携を図る。 毎週の連絡会等を活用しながら、随時、児童の実態把握と指導についての共通理解を図る。 個別の支援計画・個別の指導計画に基づいた一人一人の特性に応じた支援・指導を実施する。
		人権教育の推進に努めたか	<ul style="list-style-type: none"> 人権集会を学期に1回以上行う。 縦割班活動の充実を図る。 人権の視点に基づいた学習を各学級必ず行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権集会(6・8・11月)を活用し、人権意識を高める。 清掃や遊びの中で、自然に高学年から学べる環境を大切にす。

⑤ 地域に根ざし、地域に開かれた学校づくり

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○開かれた学校づくり	授業・行事等の公開に努め、家庭・地域の協力を得ることができたか	<ul style="list-style-type: none"> 学期1回のフリー参観デーを実施し、保護者80%以上、地域住民30名以上来校を目指す。 地域が参加できる行事を年に3回以上行い、学校の教育活動への理解を深める。 まちこみメールの保護者の登録率100%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> フリー参観デーの広報活動を校区内の全世帯に行い、各種会合時に広報する。 各種行事についての案内を保護者及び地域に配布し、積極的に広報する。 全保護者に登録を依頼し、テストメール等で登録の確認をする。
		幼保小中連携の推進を図ることができたか	<ul style="list-style-type: none"> 幼保小連携においては、交流会(低学年との交流・体験入学)を1回以上行う。 教科指導、生徒指導の視点をもった小中交流会を年3回以上開催し、小中連携を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼保との連絡協議会、中学校との交流会の場だけでなく、授業参観の機会を活用し、具体的な情報交換を重ねる。 みやき町内小中学校の校内研究における講師招聘の共有を図る。
		教育活動の広報に努めたか	<ul style="list-style-type: none"> 学校便りを月1回以上発行し、学校の様子等について家庭・地域への広報等を行う。 HPは月に1回以上情報発信のため更新する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新聞・テレビ等の取材を積極的に受け入れ、広報に努める。
教育活動		地域人材を積極的に活用することができたか	<ul style="list-style-type: none"> 生活科や総合的な学習の時間において、地域の方々と連携した取り組みを各学年1回以上は実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、計画的に地域の方々と連携し、ゲストティチャーを招いた取組を行う。

⑥ 健康で明るい教師が高きに和す学校づくり

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務の効率化・役割分担の適正化を図ることができたか	<ul style="list-style-type: none"> 平日(金曜日以外)は19:00までに、定時退勤日(金曜日)は17:00までに全職員が退勤する日を80%以上にする。 時間外勤務については、前年度より10%削減を目指す。 特定の職員に業務の負担が偏らないよう役割分担の適正化を図る。 全校に係る業務や様々な事案への対応については、全職員で取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 平日や定時退勤日の退勤時刻を、予め全職員に周知し、管理職自らが守るように心がける。 一人一人が業務改善の意識をもち、業務の効率化について考えるよう、個に応じたアドバイスを行う。 年度の途中でも、特定の職員に業務の負担が集中していないか観察し、課題がある場合は改善する。 全校に係る業務や様々な事案への対応については、全職員で取り組むように、管理職等が声を掛ける。

本年度の重点項目に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力するために必要な生きる力を育成する教育活動の推進に努めたか	<ul style="list-style-type: none"> 自らの夢や目標の実現に向けて努力しようとする意欲が高まったと答える児童を80%以上にする。 授業の振り返りを実施し、「わかった」「自分でできた」と評価する児童を80%以上にする。 授業力向上に向け、全教員が授業公開、授業研究会を1回以上行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 授業の振り返りを毎授業実施する。 研究主任が中心となって、授業力向上に向けた研究授業を計画し、相互参観と授業研究会を実施する。

●は共通評価項目、○は独自評価項目